内藤虎次郎全集　第四巻

河上徹太郎全集　第四巻

昭和四十四年十二月二十日第一刷発行

著者　河上徹太郎
発行者　井村寿二
印刷者　白井倉之助
印刷所　精興社
製本所　牧製本
発行所　勁草書房
東京都千代田区神田駿河台二ノ三
電話東京(二九四)六一二一
振替東京　一七五二五三

© T. Kawakami Printed in Japan

(落丁・乱丁本はお取替えいたします)

0373—831410—1836

河上徹太郎全集

第四巻

勁草書房刊

題簽　石川　淳
裝幀　芝本善彦

目次

ドン・ジョヴァンニ……13

名作曲家傳

ウォルフガング・モツァルト……47
フランツ・シューベルト……58
フレデリック・ショパン……69
ロベルト・シューマン……81
クララ・シューマン……93
ヨハネス・ブラームス……103

音樂と文化

序……117

第一部　樂聖物語

ベルリオズ……118
ドビュッシイ……125
フランク……131
ロシア國民樂派とムソルグスキー……137

试读结束：需要全本请在线购买： www.ertongbook.com

ワグナー……143
第二部　音樂雜感
フォイヤマン……149
シャピロ……151
演奏批評について……152
チェレプニン……154
ネオ・ベヒシュタイン……155
ルビンシュタイン……156
兼常氏の「ピアニスト無用論」……158
聽衆について……160
演奏家について……163
新響の紛爭について……165
チェルカッスキー……168
マレシャル……170
諸井三郎……171
オペラと大衆音樂……173
シャリアピン……176

貴志康一……179
クラウス・ゴールドベルグ合同演奏會……181
ケンプ……183
ティボウ……184
ピアティゴルスキー……186
ワインガルトナー……188
三人のピアニスト……190
音樂評論家に與ふ……193

現代音樂論

Ⅰ音樂論
一　音樂の近代性に關する一考察……199
二　現代音樂の舞踊調と國民性……207
三　市民音樂の崩壞……214
四　對話と獨白……223
Ⅱモツァルトのオペラ
一　「ドン・ジュアン」……227
二　「魔笛」……231

Ⅲ小品

一　古典音樂と近代音樂……234
二　現代音樂のあり方……237
三　聽衆の生態　附・近刊音樂書を周つて……239

Ⅳ書評

一　コルトー『ショパン』……242
二　小林秀雄『モオツァルト』……247
三　ライヒテントリット『アメリカ音樂の展望』……249
四　マグダレーナ・バッハ『バッハの思ひ出』……250

Ⅴ作家論

ベートーヴェン……251

孤獨な藝術幻想

オペラ・ブッファ「コシ・ファン・テュッテ」……267
歌舞伎「忠臣藏」……271
創作オペラ「修禪寺物語」……277
ヴァイオリンとオイストラフ……281
ハムレット……286

シンフォニイ・オブ・ジ・エア……292
こどもオーケストラと木管合奏……298
三つの舞臺―オペラ・バレー・少女歌舞伎……304
映畫……310
勞音「森の歌」と文樂……316
ストラヴィンスキーの「ザ・レイクス・プログレス」……323
演奏家と批評家……330
あとがき……334
ショパン
まえがき……339
生涯
1 ショパン家の人たち……341
2 幼年時代……343
3 学生時代……346
4 遍歴時代……351
5 パリ……368
6 ジョルジュ・サンド……384

7　晩年……404

私の音樂隨想

樂の音のひととき

アマチュア精神について……415

ディレッタントについて……420

演奏會について……426

園田高弘氏の日記から……431

カルメン……436

マノン……441

音樂と愛……446

日本人と音樂……451

都築の岡から

都築の岡から……456

パステルナークのショパン論……460

金澤から岩國へ……464

ドン・ジョヴァンニ……469

サロメ……473

萩へ……477
あとがき……481

音楽と芸術

新劇的人生論……485
ボルショイへの疑惑……490
晩学のピアノ—私の余技自賛……492
ドン・ジョヴァンニ……493
「ファウスト」幻想……497
魔性の酒＝音楽……506
「タンホイザー」幻想……513
「オランダ人」幻想と文学独自の場……518

音　樂　論

樂壇解消論……527
近代生活と音樂……532
音樂と文學の交流……536
二つの音樂論……540
クロイツァ獨奏會……541

试读结束：需要全本请在线购买： www.ertongbook.com

ハルビン交響樂團……542
音樂に於ける近代性……543
新劇壇と樂壇……548
十四年度春の樂壇……550
長谷川千秋『ベートーヴェン』……553
歌劇『椿姫』を觀る……554
新響の『フイデリオ』を聽く……555
樂壇の「音」と「現實」……557
新響三月定期公演を聽いて……561
パウル・ベッカーの「西洋音樂史」……564
ハイドンの「四季」を聽いて……567
無理な背延び—チエルニーから出直せ……570
聽衆の發見……571
洋樂の聽き方……572
小林秀雄「モオツァルト」解說……575
來朝音樂家たちの横顔……579
二つの合唱団……584

フィガロの結婚……588
山根銀二「音楽の旅」……590
アンドレ・ジイドのショパン論……592
贅澤修業……595
ボストン・シンフォニー・オーケストラについて……598
アウロス五重奏團……599
ハチャトリアンと読売日響……601
ワグナーの発見……603
音楽にある文學性……605
浅草オペラと中学時代……614
遠山一行著「音楽―ヨーロッパ―東京」……615

初期音樂論

シュウベルトの抒情味（リリシズム）……623
セザール・フランクの一問題……627
音樂上に於ける作品美と演奏美……632
音樂の絶對境のために……635
演奏についての感想斷片……638

ひとりで踊るブラームス……640
美と祈りと……642
「戯曲家」ベートーフェン……644
第九交響樂讃……648
諸井君の印象……649
再び諸井の音樂について……654
解説……遠山一行……658
解題……大平和登……664

ドン・ジョヴァンニ

眞船豐君に

序

私がモオツァルトの「ドン・ジョヴァンニ」にいつ頃から感激したか、はつきり覺えてゐない。恐らく何ごとにもさうである如く、私にとつてその感激は、突然の啓示としてやつて來たのではなくて、いつの間にか積つて動かし難い確信となつたものに違ひない。或る日氣がついて見ると、この作品は、あらゆる洋樂、あらゆるオペラの中で類を異にする傑作であり、のみならずモオツァルトのものの中でもづば抜けて完成されたものに見えてゐたのである。さうなるとそれは、丁度初戀にとらはれた人間の眼にその戀人が見えるやうなもので、どうにも理窟で動かすことは出來ないのである。

さういふ戀人に、相手のどこがどう好きなのだと聞かれて、咄嗟に答へられる者はゐまい。同じやうに私は、この作品に對し問はれないでも自分のうちにあれこれ答を尋ねて見た。所が、いつの間にか好きになつて動かせなかつたといふもの悲しい成り行きが示すやうに、ヨーロッパを知らぬ私に「ドン・ジョヴァンニ」の舞臺の正確な印象などないのである。レコードやコンサート・ステーヂから斷片をかき集め、ピアノ・スコアを自分でかなぐり、手當り次第の讀書でその印象を補ふだけである。然し負け惜しみをいへば、さうして拵へ上げた一つの具體的感銘といふものは、少くとも自分自身にとつては說得力の强いものである。つまり雜多なイメーヂがそれぞれの背景を伴つて私の頭の中に巢食つてゐるからである。私はもはや局部的な感激を語るにはこと缺かない。むしろその堆積による眩暈の齎す、一種の狂信を警戒すれば足りるのだ。

本書の筆をとつた最初の動機は、いふまでもなくキェルケゴオルを讀んだことにある。殊に、本文中に引用した如く、彼がこの音樂の中に、不滅の傑作を認めただけでなく、音樂によらでは現し得ぬ愛慾の理想境をここに發見したことに刺戟されたのだ。私はこの一つのイデアを攻めたてるために、本書を四つの節に分けて、四つの部面から肉薄しようとした。卽ち、第一節はキェルケゴオルの哲學、第二節はモオツァルトの音樂の史的本質、第三節は人間モオツァルト、第四節は「ドン・ジョヴァンニ」の作品の解剖である。この四つが最後に綜合されて、單一な愛慾のイデアに歸着させるのが私の理想なのだが、私の力が及ばなかつたとしても、或はこの理論的方法に同じ興味を持つて下さる讀者はないものだらうかといふのが、筆者の身勝手な冀ひなのである。

音樂が最も純潔な、卽ち現實的理念から遠い藝術形式である時、このキリスト敎的愛慾の最高の理念が、音樂ならでは能はぬといふことは、極めて平明な事實だが、同時に極めて反語的な理論である。從つて私が本書の筆をとつた所以は、さしあたりこの事實に基いた、已むに已まれぬこの音樂への愛情であるが、その裏にはこの反語的操作を理論の世界で實現して見たい

试读结束：需要全本请在线购买： www.ertongbook.com